

EA. 教育・教材(社会教育)(VHS)

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	EA2000-048	C-1	夏のファミリースペシャル 14歳になりました 子どもたち7年ごとの成長記録	日本のさまざまな地域と環境の中で生きる子どもたちを、7年ごとに追い続ける番組。 7年前、自分の夢や家族への思いを語った7歳の子どもたちは、14歳になった。思春期に入った彼らの本音を聞く。	59
	●	EA2003-066	C-1	ETV2002 シリーズ ニッポンの“独創者”たち 第2回 脳のなぞを探る～中田力～	ヒトの心や意識をつかさどる脳。今世界中の科学者たちが、脳のメカニズムを探る研究をしている。脳科学者の中田力(なかつとむ)さんは、縦型MRIという装置を使って、脳のしくみに迫ろうとしている。聴覚障害者が言語認識する時の脳の働きを調べ、それを健聴者のものと比較し、ことばを理解する脳の領域を調べるなど、先端の研究を紹介する。(中田力)	44
	●	EA2003-067	C-1	2002夏の挑戦 バックウスクール ～帰ってきた卒業生～	宮崎県えびの市にあるえびの高原国際高等学校は、全国でも珍しい中途退学者だけを対象にした全寮制の私立高校。この高校を卒業した古塚明日人さんが、教育実習生として帰ってくる。自分の体験から“自分で考え行動すれば前向きに生きる自信になる”ことを後輩に伝えるために実習期間の2週間を懸命に過ごす姿を追う。(古塚明日人・野田裕樹)	29
	●	EA2003-068	C-1	四国スペシャル 本音トーク！ ～学校って何するところ？～	四国の若者をスタジオに招き、学校の勉強は役に立つのか、学校は何をするところなのか、若者たちが学校についてどんな思いを持っているのか、本音で討論する。	68
	●	EA2003-082	C-1	真剣10代しゃべり場 他人から評価されなきゃ意味がない！	自己満足では人は成長しない、多くの人に評価される生き方こそ素晴らしいと、メンバーの高校生が訴える。人の評価は気にするべきなのか、自己満足は悪いことなのか。そして、評価と自分のバランスはあるべきなのか。 10代のしゃべり場メンバーが、激しいトークバトルを繰り広げる。(MAYAMAXX)	45
	●	EA2003-083	C-1	真剣10代しゃべり場 いじめから逃げるな！	中学校時代にひどいじめを受け自殺未遂をした経験のある女子高生が、いじめを乗り越えた今、「いじめられたら、そこで自分を見つめて、逃げずに乗り越えてほしい」と発言する。仲間からは、「今だから言える」「あなたは強いかから逃げなかつたんだ。」「逃げてもいいのでは？」等の意見が出される。(野口健)	45
	●	EA2003-084	C-1	真剣10代しゃべり場 女は男をたてるべきだと思いますか？	最近の女は社会に進出しすぎる。女が前に出すぎるから男がだめになり離婚も増える。女は男を尊敬し男をたてるべき。そう主張する10代女性に対し、熱い議論がスタートする。(室井佑月)	45
	●	EA2004-091	A-3	土曜フォーラム 今、ひきこもりを考える	なぜひきこもるのか、ひきこもりをしている人に、家族や社会はどのような支援を行うことが必要なのか。医師や教育評論家、官民の支援団体、また、ひきこもりを経験した方を交え、ひきこもりに対する正しい理解と支援方法について話し合う。(斎藤環・尾木直樹・秋田敦子)	70
	●	EA2012-021	A-3	成年後見物語	判断能力が低下した高齢者や障がい者の財産管理や身上監護を、成年後見人が行う成年後見制度の役割が高まっている。高齢者や障がい者の自律を尊重した細やかなケアは、様々な専門家が連携してこそ可能となる。この作品は、後見制度の内容を紹介するとともに若手弁護士が成長していく課程を描く。(松崎映子・藤澤よしはる・川島志保)	54

EB. 教育・教材(教材)(VHS)

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	EB2000-042	C-1	やってみようなんでも実験 熱気ムムム熱気球で大空へ！	空気を熱して上昇気流を起こして飛び熱気球。実験では、実験名人の後藤先生が自由の森学園の中学生と一緒に、3ヶ月分の新聞紙をはり合わせて、巨大熱気球を作る。 果たして、破れることなく飛ぶのだろうか。	25
	●	EB2000-043	C-1	やってみようなんでも実験 体感！実感！ソーラーパワー	だれにでも平等に降り注ぐ太陽の光は、21世紀に向けて、より多く利用されることが考えられる。 今回の実験は、太陽の熱エネルギーを使い、簡単な温水装置を作る。実験に協力してくれるのは、東京家政大学附属女子中学高等学校の宮澤先生と理科部の生徒たち。	25
	●	EB2000-044	C-1	やってみようなんでも実験 絵を電気のにせて 手づくりFAXに挑戦	とても便利な機械・ファクス。今回は身近にある材料を使って手作りファクスに、実験名人と立教高校の生徒たちが挑戦する。 ファクスの機能は原稿の文字や絵を写し取って遠くへ送ること。まず、原稿を写し取るのは簡単にできたが、果たしてそれを遠くへ送ることができるのか。	25
	●	EB2000-045	C-1	課外授業ようこそ先輩 だれもがソングライター シンガーソングライター小椋佳	これまで1,000曲を超える歌を作词・作曲してきたシンガーソングライターの小椋佳さん。小椋さんは母校の黒門小学校の5年生に作词・作曲についての授業を行う。小椋さんは、子供たちに歌うことの楽しさを知ってもらふことと、自分たちで歌を作ることの喜びを知ってもらいたいと授業に取り組む。	44
	●	EB2000-046	C-1	課外授業ようこそ先輩 微生物は超能力者だ！小泉武夫	発酵学の第一人者・小泉武夫東京農業大学教授が、母校の福島県小野新町小学校に世界一臭いという缶詰や発酵食品を持参。納豆や甘酒等を作ったり酒造りの工程を見せて、微生物の偉大な働きと人間のかかわりを分かりやすく説明する。	44
	●	EB2000-047	C-1	課外授業ようこそ先輩 みんなで書いたラブシーン	脚本家の内館牧子さんが、母校の大田区立雪谷小学校の6年生にラブシーンのシナリオを書いてもらいながら、恋愛のすばらしさを説いていく。 シナリオの「好き」というセリフが読めないほど照れてしまうのに、書かれた作品は大人顔負けで、先輩を驚かせる。	44
	●	EB2003-062	C-1	課外授業ようこそ先輩 河童流モノの見方覗き方 舞台美術家 妹尾河童	『少年H』の作者としても有名な妹尾河童さん。本職は舞台美術家。台本にかかれたイメージを舞台美術として表現すること45年。母校の神戸市立長楽(ながら)小学校を訪れ遠近透視図法を使って、どんなモノでも視点を変えれば見え方は違うこと、モノをよく見ていかに相手に伝えるかを教える。	33
	●	EB2006-006	C-1	たったひとつの地球 シリーズごみ① 命をうばうごみ	人間が毎日出しているごみ。このごみが地球上の多くの生き物たちの命をうばっている。 実際につり糸やつり針で傷ついたハトや、プラスチックごみを食べて死んだイルカの胃の内容物がしょうかいされ、人間の出すごみが生き物たちの命をうばっていることが実感できる。ごみのシリーズ全3回。	15
	●	EB2006-007	C-1	たったひとつの地球 シリーズごみ② ごみをへらすには	ごみのシリーズの2回目は、ごみを減らすためにできることを考える。特に、資源ごみとしてリサイクルされるべきアルミや鉄、ペットボトルなどが、ごみとして街にあふれている実状を通して、リサイクルの重要性を訴える。	15

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	EB2006-008	C-1	たったひとつの地球 シリーズごみ③ ごみが教えてくれたこと	ごみのシリーズの3回目は、福岡県の相島(あいのしま)にある相島小学校の子どもたちの取り組みをしようかいする。 玄界灘(げんかいなだ)にかかぶ相島には、毎日大量のごみが流れ着く。海岸清そうをする相島小の子どもたちは、なぜごみが流れ着くのか？流れているごみはどうなるのか？といった疑問を持ち、調べ学習を行っている。	15
	●	EB2007-007	B-3	ことばおじさんのナットク日本語塾 こだわる	最近、「こだわりの一品」などと呼ばれる「こだわる」。「こだわる」という漢字を使った熟語は、あまりよくない意味で使われるが、最近はいい意味で使われる場合が多い。「こだわる」の意味の変遷を分かりやすく紹介する。	5
	●	EB2007-008	B-3	ことばおじさんのナットク日本語塾 とんでもございません	「とんでもない」の丁寧語として「とんでもございません」ということばを使う人が多いが、「とんでもございません」ということば、どこか変だと感じる人は年代別によって分かれる。「とんでもない」を丁寧なことばでは何と言うのか、分かりやすく紹介する。	5
	●	EB2007-009	B-3	ことばおじさんのナットク日本語塾 情けは人のためならず	「情けは人のためならず」ということばの意味は、「情けをかけるのは、その人のためににならない」という意味なのか、「情けは、その人のためにかけるのではない」なのか、意見は分かれる。どちらが本来の意味なのか分かりやすく紹介する。	5
	●	EB2007-010	B-3	ことばおじさんのナットク日本語塾 全然大丈夫	最近、若者を中心に「全然大丈夫」など、頭に「全然」をつけて話すことばが多い。本来、頭に「全然」が付くと最後の文に打ち消しのことばをつかうはずだと思う人は多い。「全然」の使い方について分かりやすく紹介する。	5
	●	EB2007-011	B-3	ことばおじさんのナットク日本語塾 他人事	「他人事」という漢字は「ひとごと」と読むのか、「たにんごと」と読むのか。また、「お手数」という漢字の読みは「おてすう」「おてかず」の両方使われている。本来、どのように読むのが正しいのか、分かりやすく紹介する。	5
	●	EB2008-003	B-2	国語研究所 「ことばビデオ」シリーズ ＜豊かな言語生活をめざして＞1 相手を理解する 言葉の背景を見つめると…	言葉を用いたコミュニケーションの場では、時に行き違いや誤解が生じる。作品では、そうしたコミュニケーションにおける戸惑いやつまづきの具体例をドラマ仕立てで取り上げ、なぜそれらが起きるのか、どうしたら防げるのか、起きてしまった場合どう対応すればよいのかを考える。文部科学省特別選定。 第1話「すみません」のコミュニケーション、第2話 いきいき方言、第3話 丁寧な言葉はどんなときに？、第4話 ほめるのは難しい、第5話「あいまいな言葉」の中に、第6話 多様性を見つめて。 〔製作：東京シネ・ビデオ株式会社〕	38
	●	EB2008-004	B-2	国語研究所 「ことばビデオ」シリーズ ＜豊かな言語生活をめざして＞2 コミュニケーションの「丁寧さ」「ほめる」というのはたつきかけ	丁寧なコミュニケーションとはどんなものだろうか。敬語を使う・言い方を工夫する・言葉以外の丁寧さなど、生活の中のさまざまな場面での会話を取り上げ、「人が丁寧だと感じるコミュニケーション」について考える。 作品後半は「ほめる」について。ほめられることによってやる気が出たり、人間関係がスムーズになったりする様子を見ながら、「ほめる」ことのはたらきを考える。〔製作：東京シネ・ビデオ株式会社〕	46
	●	EB2008-005	B-2	国語研究所 「ことばビデオ」シリーズ ＜豊かな言語生活をめざして＞3 方言の旅	方言をテーマにレポートを書くことにした女子大生が、山形県の庄内地方を訪れ、生きた方言に触れる中で方言に存在する文法や変化、若者と高齢者の使う方言の違いなどを言語地図などの資料を参考に考察する。〔製作：東京シネ・ビデオ株式会社〕	52
	●	EB2008-006	B-2	国語研究所 「ことばビデオ」シリーズ ＜豊かな言語生活をめざして＞4 暮らしの中の「あいまいな表現」	日々の暮らしの中では、あいまいな表現が元で誤解が生じることがある反面、はっきりとした表現を避けることで、人間関係がうまくいくことも多い。この作品では、幾つかのあいまいな表現を取り上げ、その働きや問題点を考えるとともに、問題が起きやすいケースについては改善策も提案する。〔製作：東京シネ・ビデオ株式会社〕	35
	●	EB2008-007	B-2	国語研究所 「ことばビデオ」シリーズ ＜豊かな言語生活をめざして＞5 日本語の音声に耳を傾けると…	話しことばには、声の調子によって、気持や意図を伝えられるという面がある。ふだん、特に意識せずに話している音声の部分に注目して、音声の果たす役割を考える。 3話構成。第1話 気持や意図を伝える音声、第2話 方言の中の音声、第3話 外国人の話す日本語の音声。〔製作：東京シネ・ビデオ株式会社〕	35